

1. 健康経営優良法人認定制度

例えば、受動喫煙対策、ストレスチェック、長時間労働対策等、今や労働者の健康管理は経営上の最重要課題の一つといっても過言ではないと思います。今回は、そんな中で新たに誕生した認定制度についてご紹介します。健康経営優良法人認定制度といいます。この制度は、地域の経営課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を表彰する制度です。健康経営に取り組む優良な法人を「見える化」することで、従業員や求職者、関係企業や金融機関などから「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として社会的に評価を受けることができる環境を整備することを目標とする制度です。

この制度ができるまでの経緯は置いておくとして、認定を受けるためには先に挙げた3項目等、いくつかの要件を満たさなくてはならないのですが、認定となると、なかなか洒落たロゴマークを使用することができ、対外的にアピールすることができるようになります。また、金融機関等による低金利融資や人材関連企業からの人材確保支援など認定企業へのインセンティブを充実させていく予定となっています。今後、ますますの売り手市場が予想される中で、求職者に対するアピールにもなるのではないのでしょうか。

第1回の申請期間はすでに過ぎてしまったのですが、追加申請が7月ごろに行われる予定です。労働者の健康管理については、今後ますます取り沙汰されるようになります。この点についてお考えになっているのであれば、合わせて検討してみたいかがでしょうか。

2. 「副業」に関する企業のホンネと今後について考える

個人による輸入ビジネス、Webメディアのライター、アフィリエイト、営業代行、民泊…。これまであまり一般的ではなかった「副業」ビジネスが、いま注目されています。「週刊東洋経済」2016年10月29日号によれば、79.1%の人が「副業に関心あり」としています。特に近年は、残業削減の時流もあり、「長時間労働により残業代を稼ぐ」という働き方が難しく「残業から副業へ」という流れが出てきましたし、副業は人脈やスキル、やりがいなどのキャリア形成の目的にもなっています。

政府も副業を後押ししており、昨年末には厚生労働省が、今までモデル就業規則に記載されていた副業・兼業に関する規定を「原則禁止」から「原則容認」に転換する方針を示しました。政府としては、いずれ訪れる労働力減少時代への備えとして、働き方の選択肢の1つとして副業を奨励したい考えのようです。

企業の多くは現在、自社の従業員が副業を持つことを禁じています。中小企業庁「平成26年度兼業・副業に係る取組み実態調査事業報告書」によれば、「副業を認めていない」企業は全体の85.3%でした。また、日本経済新聞社が昨年実施した「社長100人アンケート」でも、経営者の8割が「副業を認めない」と回答しています。認めない理由としては「本業がおろそかになる」「情報漏洩のリスクがある」などが挙げられています。他にも、企業にとっては、「副業を社員に奨励することで、業績への不安を煽ってしまう」「労災が発生した場合、本業と副業の判断基準が難しい」といった問題もあります。多くの企業にとって「副業を積極的に奨励するメリットは少ない」というのが本音ではないのでしょうか。

一方で、ロート製薬やヤフージャパンなどは、副業を解禁したことで本業との相乗効果が出たと、数多くのメディアにて報道されています。副業と上手に付き合えば、企業にとってもメリットがあるかもしれません。副業が世間的に定着するのはまだ時間がかかりそうですが、自社において従業員の副業をどうすべきか、今から検討してみるのもよいかもしれません。

● 編集後記 ●

お正月休みに今さらですが『君の名は』を観に行きました。男女が時空を超えて入れ替わる、単純そうでいて深い設定。「世間が認める素晴らしい作品」というのも納得でした。映像もきれいで、日本の四季が美しく、都会の描写もかなり精密に描かれています。私は新宿南口にある映画館で観たのですが、ちょうどその映画館のビルも映像で出てきて、映画の中にいるような不思議な気持ちになりました。(秋山)



あおぞら人事・労務サポート
 特定社会保険労務士
 秋山幸子 (登録 NO.13050514)
 三鷹市下連雀 3-38-4
 三鷹産業プラザ 307
 TEL:0422-24-8625
 FAX:0422-24-8605
 E-mail: info@aozora-sr.com
 URL: www.aozora-sr.com

責任編集: 社会保険労務士
 秋山・隅谷・玉川・安部(武蔵野統括支部)